

こまつな・冬どり

千葉農林振興センター

1 地区名（集団名）

千葉市東部地区（J A千葉みらい千葉東部地区出荷組合連合会）

2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 11名
- (2) 面積 545 a
- (3) 収穫量又は出荷量 12,000ケース（300g×30束）
- (4) 出荷先又は販売方法 市場出荷

3 ちばエコ基準達成状況

| 区 分 | 実施状況 | ちばエコ基準 |
|--------------|-------------|-----------|
| 化学合成農薬(成分回数) | 1回 | 3回 |
| 化学肥料（窒素分量） | 3～8.5kg/10a | 8.5kg/10a |

4 事例のあらまし

千葉市南東部地区は、にんじん、だいこん、ねぎ、ごぼう、さといもなど露地野菜の産地で、93名の生産者がJ A千葉みらい東部地区出荷組合連合会を組織しています。この中で12名が薬物部会を組織し「こまつな」の周年出荷を行っています。

当産地は、以前から減農薬栽培を行っており、平成16年より「冬どりこまつな」、平成17年より「秋・冬どりこまつな」で「ちばエコ農業産地」指定を受けました。現在では全面積（全栽培者数）の8割以上がちばエコ栽培に取り組んでいます。ちばエコ農産物の認証を受けたコマツナは、学校給食にも供給されており、食育活動にも一役買っています。

5 背景・動機

千葉市南東部地域は、露地野菜を中心としJ A千葉みらい千葉東部地区出荷組合連合会が組織され、露地野菜の産地として活動をしてきました。しかし、農産物の価格低迷や地力の低下が問題となり始め、産地の活性化に向けて新たな取り組みが必要となってきました。一方、地域の消費者との交流の中で、安全で安心な地元の農産物への要求がとて高いことがわかってきました。

このような背景により、生産者と関係機関で話し合いを重ね、減化学・減農薬栽培に取り組む、平成10年には国の「特別栽培農産物に係るガイドライン」に従って、主力品

目のにんじんとだいこんから具体的な取り組みを始めました。

平成14年には、ちばエコ農業推進事業が始まったことを受けて、にんじんとだいこんの産地指定に向けて取り組み、現在では、こまつなを含めた5品目で産地指定を受けています。

こまつなは、今から10年ほど前に、数名のメンバーが軽量のほうれんそう、こまつななどの葉物に取り組んだのをきっかけに、周年栽培が始まりました。

こまつなはアブラナ科の葉物野菜のため、一番の問題は害虫でしたが、従来よりワリフや防虫ネットにより、農薬の削減に取り組んできており、ちばエコ農産物の導入は比較的容易でした。



6 栽培方法

(1) 土づくり

連作を避けるため、1戸あたり1～1.5haの畑を区分し順番に使います。区分した畑では2～3作栽培します。柔らかく肥沃な土を作るために、輪作体系に緑肥（ヘイオーツ、ソルゴーなど）を取り入れて畑にすき込みます。また、牛糞等の堆肥を1～2 t/10 a施用します。現在、地域内の酪農家の牛糞堆肥の使用も進んでいます。

(2) 播 種

条間15cmの6～8条播きにします。株間5cm（冬は3cm）になるように、種の大きさにあわせて播種機（ごんべい）のベルト等を調節します。8条播き50mのトンネル一本で300～400束収穫できるので、1日で束ねられる数を生育日数から計算して、1日当りの播種の面積を決めます。

(3) 病虫害防除

防虫ネットによる被覆が普及しています。虫だけでなく大風や大雨の被害軽減にも有効です。支柱を1～1.5mおきに立て、ワリフやサンサンネット（目合0.8mm）で被覆します。裾は土の中に埋めて、虫の侵入を防ぎます。栽培期間中にトンネル内で虫が発生していれば、ネットの上から薬剤散布をします。冬は防虫ネットの上

にユーラック等をかけて保温します。厳冬期にはパスライト等のべたがけもします。ハウスや大型トンネルも使い、年間を通じて出荷します。

(4) 収 穫

収穫直前まで防虫ネットは覆っておきます。収穫調製は畑で行い、1束400gの束にして紫のテープで結束します。1日で1人150～300束作ることができます。収穫したコマツナは洗い機で根を洗って泥を落とし、予冷库にいれます。水が切れたら20束を1箱に詰めて出荷します。

ア 栽培管理（平成17年度の事例）

| 作業名 | 実施年月日 |
|---------|------------|
| 前作収穫終了 | 平成17年9月15日 |
| 耕 起 | 9月30日 |
| 施 肥 | 10月12日 |
| 播 種 | 10月13日～28日 |
| 収 穫 開 始 | 12月1日 |
| 収 穫 終 了 | 12月25日 |

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10aあたり)

| 使用銘柄 (N:P:K) | 実施年月日 | 施用量 | 全 N | 化学N |
|--------------|------------|-------|--------|-------|
| 牛 糞 | 平成17年9月30日 | 1.2 t | | |
| 米 糠 | 9月30日 | 350kg | 7.0kg | |
| ジシアン有機特806号 | 10月12日 | 80kg | 6.4kg | 4.4kg |
| 苦土石灰 | 10月12日 | 60kg | | |
| 合 計 | | | 13.4kg | 4.4kg |

※米糠はN成分2%で計算した

(イ) 病虫害・雑草防除等

| 使用農薬 | 対象病虫害 | 実施年月日 |
|-----------------------|-----------|-----------------|
| ダイアジノン粒剤5 | キスジノミハムシ | 10月13日～28日(播種時) |
| ※スピノエース顆粒水和剤 | コナガ・アオムシ類 | 10月28日及び11月7日 |
| 化学合成農薬使用回数1回(総使用回数2回) | | |

※印は、「化学合成農薬に含めない農薬」

7 今後の展望等

薬物部会はすでに市場評価も高く、高い技術をもっていますが、さらなる技術向上を全員で目指します

(1) 周年出荷の安定化

こまつなの生産は天候に左右され、反収は年次格差が大きいのが実態です。特に、梅雨～夏場、厳寒期の出荷量の安定が課題です。栽培講習会や現地検討会による情報交換などさらなる研鑽を怠らず技術向上に努めます。

(2) 品種の選定

品種については常に試作を行い、ちばエコ栽培に適し、病害虫に強く消費者や実需者のニーズに合う品種を選定します。また、栽培する季節にあった品種を選定することも大事です。

(3) 土づくりの推進

輪作や緑肥のすき込み、堆肥施用による土づくりが行われていますが、土づくりにはさらに力を入れて取り組みます。

(4) コスト・労力の低減

ちばエコ農業に取り組んでも、販売面においては一般栽培との価格差は出ておらず、労力的にも余分にかかっているのが実情です。低コスト化、省力化を目指します。また、有利販売に向けた取り組みも展開します。

(5) 市場評価の維持・向上

特に品質が低下しやすい梅雨期～夏場、厳寒期の安定した生産に力を入れ、安心・安全で高品質なちばエコ農産物を、安定的、計画的に出荷し、市場評価を高めます。

(6) 外部へのPR

消費者や流通業者との交流や学校給食での活用を通じて、ちばエコ農産物や産地の取り組みを積極的にPRします。

今後、この部会の取り組みが他地域の生産者にも波及し、より多くの消費者にちばエコ農産物が供給されることが期待されます。